

＜編集部に＞の訳

- M:** 新年は何から始めましょうか、ヴェルナー編集長？
- W:** そうね、一番北のシュレースヴィヒ＝ホルシュタインにしましょう。干潟、北海の島々、ハリゲン諸島(北海沿岸の群島。高潮でしばしば海没する)、それに荒涼とした風景を味わっているような気分になるような文章を書いてちょうだい。あなた、魚や小エビは食べないのよね。シュナツプス(焼酎)、ブランデーなど、アルコール分の多い蒸留酒の総称)も飲まないし…。シュレースヴィヒ＝ホルシュタインで飢え死にしないさきやいけど…。
- W:** で、どうだった？ ちょっと日焼けまでしてんじゃない。
- M:** ええ、とてもよかったですよ。運がよくて、お天気はすばらしかったし、砂丘の浜辺を散歩することもできて最高でした。北海沿岸には初めて行っただけですけど、浜辺、砂丘、それに堤防といった風景が作り出すあの雰囲気は、ちょっとオランダに似てて馴染みがありました。
- W:** そうね、あの風景はデンマークまで続くすべての海岸沿いで、まったく同じで変わらないから。住んでいるのもフリース人(Frieslandに住むゲルマン人の一部族)だし。
- M:** 潮が引くと、何時間にもわたって、いわば海底を(つまり干潟を)散歩することができるんです。歩いていると、強くてさわやかな風が耳元に吹いてくるんですよ。
- W:** でも、散歩のとき寒くはなかったの？
- M:** いいえ、全然。日差しもありましたし、気温も10度くらいで穏やかでした。それはそうと、夏に絶対もう一度、北海に行きたいと思ってるんです。
- W:** そう、どうして？
- M:** 多くの北海の島々には、すてきなFKK (Frei-Körper-Kultur = ヌーディズム、裸体主義)用の海岸があるって聞いたから…。
- W:** あなたFKKみたいな裸になるの？
- M:** ええ、もちろんです。水泳パンツをはかないで浜辺で過ごすのは、とても気持ちがいいリラックスできますから。それにFKK 信奉者は、とても気さくな人たちなんですよ。
- W:** じゃあ、私も一度一緒に行ってみるわ！ ところで新連邦州 (=旧東ドイツ) の

バルト海沿岸にも、とてもたくさんFKK 用の海岸があるそうよ。FKK は、旧東ドイツ(=ドイツ民主共和国)時代から非常に人気があったということね。

M: じゃあ、そこへも行ってみなくちゃ！

W: ええ、夏になったらね。まずは記事を書いてちょうだい。その後で考えることにしましょう。FKK の話に触れることも忘れないでね。きっと日本の読者の興味をひくはずだから。

＜雑誌記事＞の訳

北海の島々

北海の島々は、とりわけ夏にドイツ人が休暇を過ごす場所として人気があります。ここは空気がきれいでミネラル分を含んでいますから、呼吸器系に問題のある人やアレルギーを抱えている人には好適な場所です。またこの地域には、ウォータースポーツや保養のための施設もたくさんあります。多くの海岸は、裸で水浴することが許されており、いわゆるFKK 信奉者用になっています。このヌーディズムの文化は、たとえば自然食運動のような他の多くの自然愛好運動と並んで、19世紀末に、工業化や、せわしない大都市生活、また厳しく単調で不健康な工場労働への対抗運動として生まれました。北海の島々の中で最も有名なのは、ズェルト島とヘルゴラント島です。

比較的小さな町々は、港と漁業が主な特色です。冷たい北海には、それほど数多く、また多種類の魚がいるわけではありません。獲れるのは主に、カレイ、タラ、小ダラ、そしてニシンといった魚で、特にニシンは酢漬、あるいは塩漬にされ、いわゆる「マチェス」(塩漬の若ニシン)として調理しないでそのまま食べられます。また、北海の小エビも有名です。これはとても小さく、味の濃い小エビで、たいていは殻をむいて売られています。

島での生活は厳しいものです。嵐や高潮が繰り返し起こり、とても危険なものになる場合もあります。しかし、太陽の光がなくても、強い風が吹いても、干潟の多い海や砂丘、そして堤防が印象的な風景は、人の心を強く惹きつけ、ゆっくり散歩したいという気持ちにさせるのです。

(トーマス・マイアー)